

おお大勝利

平成 30 年度山東サッカー一部報第 10 号 (7 月 18 日)

サッカー部保護者の皆様、OB・OGの皆様、日頃より本校サッカー部の活動にご理解とご協力を賜りまして、感謝申し上げます。

新チーム船出は1勝1敗

7 月 14 日 (土) Y2A 第 8 節の長井高校戦、そして翌々日 16 日 (月) に第 9 節山本学園戦が行われました。まずは第 8 節のレポートから。

長井高校との初戦は米工 G。4 週連続の米沢での試合。**長井は県総体にて代替わりしているので、新チーム同士の対戦**となる。山東としては**新チーム初戦**ということで、早めに初勝利を上げて、安心したいところ。この日、とにかく暑い。翌日はもっと暑かったのですが、この日も十分の暑さ。ただ、午前中の試合だったので、まだ良かった。

もちろん、**清野総監督**と**後藤報道局長**は並んで参加。多数の保護者も当然いらっしゃり、山東新チームの初陣を見守る。山東には現在 1・2 年生選手が 25 名おり、20 名登録なので、故障の 5 名がちょうど応援の役割 (ということはプレーできる者は全員ベンチメンバーに入ることができる)。故障者の中でも特に、**2 年生のスマイリー&スリーピー副主将タケチャン**と、**主将ニコラスも驚く勉強量を誇るアキシン**は、早く復帰しないと、1 年生が二人のプレーを見たこともないまま時間が過ぎてしまう。早期復帰を争ってもらいたい。先発は 1 年生 6 名、2 年生 5 名。

さて、試合が始まると、5 分 5 分の試合展開。というか、「主導権を握っている」という表現が成立しないほど、両チームのボール、落ち着きがない。前半、山東も悪い形でサイドの裏を取られ、危ないシーンを迎えるも、長井の逸機で事なきを得る。すると山東にチャンス到来。右サイドを攻略し、センターリングを上げるも中で合わず、と思ったら、**オクヤマ家の DNA を持つ男 1 年左 SH ヒラマサ**が (まあまあ) 巧みな左足のキックフェイントで右に持ち替えると、右足でグラウンダー (ごろ) のシュートを放つ。それがネットを揺らし、**山東先制**。左足でフィニッシュできる力がしっかり付けば、キックフェイントも益々威力が増すでしょう。山東は前半、低い位置から GK と DF でかなりパスをまわし、いわゆるビルドアップを試みるが、ボール保持者 (on の選手) が「止める蹴る運ぶ」を素早く正確にできないのと、効果的なポジショニングでボールを持っていない選手 (off の選手¹) が関われないのとで、結局大味なロングキック (not ロングパス) に頼り、チャンスメイクできない。**ダイレクトな (ゴールに直線的に迫る) ロングパスは有効なのだが、そればかりでは単調で通用しないし、ましてや正確性を欠くでたらめなキックでは何をしたいのか (プレーの意図) がわからない。**

後半は、前半よりは内容は良かった。**相手シュートをゼロに抑えることができた**と記憶している。すなわち守備は安定。特に、**右 SB で先発した 2 年ダイキ**は CB としてもまずまず

¹ on the ball の状況にある選手と off the ball の状況にある選手の省略形。現場ではよく「on のとき・・・」とか「off の選手が・・・」などと用います。

の働き。**先発して後半途中で 2 年イグラと代わった 1 年 GK カザマ**は、パンチある左足キックが特徴のイグラと真逆で、キックはまだまだ改善してもらわなければならないが、安定感は一歩アップ。ゴール前のゴチャゴチャした展開の中でボールを押し込んだ**2 年 FW オサの追加点**により、2-0。次、後半から FW にポジションを移したヒラマサが、足元への縦パスに対しトラップミスをした後にうまい反転で独走状態を作り出すと、それを許した相手はたまたまペナルティエリア内にもかかわらずヒラマサを引っ張り倒す。PK かと思われましたが、**後半から交代で入った 1 年ワタル**が倒れた二人をよそ目にそのボールを奪い、ゴール内にボールを蹴りこんで 3-0。反転からのドリブルは縦パスへのトラップよりも難しいのですが、「簡単なことは簡単に出来ないが難しいことは簡単に出来る」**黒豹リキ**（山東 68 回卒）ばりのヒラマサのプレーと、諦めずに食欲に走ったワタルとの**附中コンビによる得点**で、ダメ押しの得点。この試合はこのまま山東の勝利。**内容はともかく、新チーム初勝利を飾り、ホッと胸をなでおろす。**

16 日は、白鷹町東陽の里 G（人工芝）にて山本学園戦。山本はシーズン開幕直後こそ、まだエンジンがかかっていなかったものの、「自分たちの勝負パターン」を確立し、調子を上げている。前節米沢工業戦は、後半の鮮やかな 3 得点で 1-3 の逆転勝ちを収めている。山東としては、8 チーム中リーグ暫定 8 位の長井と 7 位の山本学園を破り、**まずは残留を確保したい**が、船出したばかりの新チーム、そんなにうまく立ち回れるか。

この日はどんよりとした曇り空で、気温はいつになく低い。もちろん涼しいとまでは行かないが、コンディションは悪くない。山本は手堅く守り、前線に残る力強いアタッカー陣で攻めきってしまうチーム。ディフェンスにおいては、切り替えの速さや最終ラインでの球際が勝負の鍵。山東の前線の選手の適切なアプローチにより、良いフィードをさせないのも大切。そんな確認をして、試合に臨む。

立ち上がり、山東の選手、ボールが足に付かない。根本的にはもともとの技術の低さゆえなのですが、「立ち上がりはダイレクトに攻め、トップは裏を狙い、勢いを出せ」という試合前の確認を無視する、**自主性あふれる選手たちのボール回し**にて、ボランチがトラップミス連発。何となく山東陣内の攻防が続くと、右サイドの 2 対 1 の数的優位の場面で奪いきれなかったところを GK と DF の間を通す素晴らしいクロスを上げられ、ファーに回り込んだ相手 FW にピタリ合わせられ、**開始 3、4 分で早くも失点**。①数的優位でボールを奪いかけたのに取り逃がす、②DF ラインを下げるのが遅れ、逆サイドの左 SB の戻りがまったく間に合っていない（相手に簡単に前を走られてしまった）、という課題が詰まった失点だったが、③そもそもの試合の入りの戦い方自体どうだったのか。ボランチが DF とパス交換して低い位置取りを取れば、ダイレクトに攻めてもセカンドボールは拾えず、チグハグなことになってしまう。そんなもって、ダイレクトに攻める以前にミスして自滅してるのだから、開いた口が塞がらない。**立ち上がり、ダイレクトに攻めるのだったら、ボランチは前線に向けて走っていかなければならない！**

その直後も、①無駄に CK を与え、②ゴール目の前のふわりとしたボールを FP が競り負け、③GK は目の前の FP の競り合いを傍観。後から分かったことですが、④バネのある要警戒の相手 FW のマークが、山東の先発でも 1、2 を争う低いフィジカル能力の選手であり、それに周りが何も対応しようとしなかった、という課題が重なり、1 失点目と同じ強力 FW に決められ、**開始 7、8 分で 2 失点目**。③については、相手のマークを担当しないゾーンで

守る FP がボールに競っていたので GK は出にくいとも言えるが、**その選手はニアサイドの勝負要員であり、「ファーサイドは GK の範囲」の約束事に基づき動かねばならなかった。**ましてや、ふわりとしたボールならば、手が使える GK が絶対有利。GK には積極的に行って欲しかった。しかし、ここでは、①②そして③よりも、**④を問題視したい。**コミュニケーションの問題と言ったらいいのか、責任感の問題と言ったらいいのか。**周りを見て、自チームの失点を防ぐために自分から行動を起こす選手たちがそろっている「当たり前のことができるチーム」であれば、防ぐことの出来たミスマッチ**ではないのか。ピッチ内のコミュニケーションはどんなものだったのか。

ともかく、開始 10 分もしないで 2 失点。その後、ミドルサード（中盤）まではボールをうまく動かし、特に**右 SB ダイキから好パスが出るも、FW のオフサイド**（ウェーブの動きの少なさ、相手 DF との駆け引きの少なさ）、**MF のトラップミス**（技術不足、ここぞのメンタルの弱さ）により、アタッキングサード（相手ゴール前）まで行けず。**相手 DF ライン裏まで抜け出しといての逸機であり、もったいないフレーの連発**でチャンスをふいにする。

さて後半。早々に、左 SB から縦パスを受けた左 SH が前方をよく観ずにすぐ隣にいたボランチに横パス。しかし、簡単なパスを通すことができずに奪われ、そのまま山東左サイドを破られ、センターリング。相手 FW はフリーでしたが、ボールは幸運にもゴールマウスをとらえず。山東としては「助かった」。しかし、このピンチも、当たり前のことができない技術の低さが一つの要因としてありますが、そもそも左 SH にアプローチした相手選手にパスを奪われている。すなわち、相手選手はボランチへのパスを読んでいたということ。左 SH がしっかりと前方を確認することができれば、相手の動きを観て、相手の読みを外し前方にトラップ可能だったはず。**技術のミスというより、判断のミス**だった。というか、それは真実だとしても、ボランチへのパスを次のプレーの第一候補としていたときに、**ボールを凝視してしか横パスを出せない（前方を確認しながら横パスを出せない）技術の低さ**という問題かもしれない。

絶体絶命のピンチを脱し、まだ勝利の女神は山東を見放していないと思った矢先、山東が相手ペナルティエリア内で相手のファールを誘い、PK 獲得。キッカーは誰かと注目が集まる中、誰もボールを拾いに行かない状況を確認し、「オレ？」と周囲を見渡したのは**2 年 FW オサ**。オサが PK マークへ向かう。「オサやめとけよ～」と嘆いたのは**2 年マネージャーのアヤ**。理由を聞くと、オサはこれまで公式戦・練習試合で PK 決めたことがないのだと。**その選手に蹴らせる（自分で蹴って外したくないから誰かに任せる）他の選手の問題。**と思い戦況を静観。だってオサ初めて決めるかもしれない。すると、**オサはドキドキの PK を決めた！**「オサ、めっちゃホッとしてる～」と突っ込みを入れたアヤが、この PK の得点を一番喜んでいて、と書いておきましょう。さあ、3 失点目を喫するかと思った矢先の得点で**スコアは 1-2**。ツキは山東にあり。そう思い、確かに山東の攻めに元気が出てきた。

「よ～し同点だ～」と前傾になった途端、今度は、GK からの 1 本のキックが相手の FW に渡り、そのまま持ち込まれ、いったん前に出た GK は後方に下がりながらの対応でシュートの時止まることが出来ず、呆気なく失点。**追撃ムードが高まった時の失点で 1-3**。しかも、**1 本のパスで簡単にゴールを割られる守備の弱さが凝縮した失点。**①相手のキックにおいてしっかりバックステップを踏み後方に戻り、ボールに対しては前方に出て勢いをつけて、パワーをもって対応する守備の基本が出来ていない（何となく対応しても大丈夫だった中学までのレベルで CB がプレーしている）、②前方に勢いをつけて行く選手とサポートす

る選手の関係、すなわち**チャレンジ&カバーの関係の構築**を怠っている（「この選手に行くのは俺ね」「お前ね」というコミュニケーションを事前に行っていない²）、という守備の基本が（ちゃんと）出来ていない現状を象徴する失点。何とも残念。せつかくの追い上げムードが台無し。

しかし、DFを投入し、CBをボランチに上げ、**ボランチをしていた2年ノブ**をトップ下に上げ、ノブのドリブル、パス、シュートに期待するポジション変更を指示すると、それが効を奏したか、アグレッシブに攻撃開始。そんな中、流れの中からなぜか**CBのヤグチ**が中央でスルーパスを受けると、抜け出し、GKと1対1。そして狙い済ました矢口のシュートはポストに当たり内側に跳ね返るも入らず。「何だよ、ヤグチ、きめろよ〜」と嘆き、集中を切らしていると、**選手たちは集中を切らしていなかった！** ルーズボールを**オサ**が拾いセンターリング、それを**CBからボランチに上がった1年ユッキーことツノダ**がスライディングシュートを決め、**再び1点差の2-3に追い上げる**。そしてゴール内のボールを拾いセンターサークルまで持ち込む時のユッキーの戻りの速いこと。ユッキーってまじめに走ると速いんだなと実感。というのは冗談だが、この試合を諦めていない選手の姿勢が表れていた印象深いシーン。

もしかしたら、と皆の期待が高まりましたが、「1度あることは2度ある³」。右サイドを簡単に破られ、失点し、**結局2-4での敗戦**。新チームの現在地点を示す試合となりました。

帰りには、1年生全員！が荷物運びをせず、ダラダラと携帯をいじっていたらしく、**高橋コーチからかなり厳しい言葉を頂いた**模様（私は次戦の主審だったため不在）。**周りを見て、自分から動く当たり前の行動ができていないのは、すなわち、当たり前のことを当たり前に出来ないのは、ピッチ内外で変わらない、だから弱いのだ、と実感**。On the pitchの問題とoff the pitchの問題には、共通点が多い。そういうところから成長していかなければならない、と改めて気づかされた敗戦となりました。

応援ありがとうございました。次節もすぐやってきます。そしてその次は、夏休みを挟んでの再開となります。部報次号は、夏休み後の11節後となるでしょう。それまで、**月山合宿**（8月2日～4日）、**山東サッカーフェスティバル/OB戦**（8月4日14:00～4）、**苗場遠征**（8月11日～14日）で遅くなって来ます。また応援よろしくお祈りします。

7月21日（土）Y2A第10節 羽黒B戦 16:00～@米沢SF

8月26日（日）Y2A第11節 山形中央C戦 10:00～@山形中央高校G

² 特に、CB間と、CBとSBの間。**相手がツートップで来ている時には、CBのカバーとして逆SBを指名しておいたり、相手トップをSBやボランチに背負わせてCBがカバーに入ってもよい**。その構築を怠っている。その怠慢の典型例だが、自分たちのCK時に、一人余らせて後方に残っている山東の選手をよくよく見ると、どちらがチャレンジ役でどちらがカバー役か、あいまいにしていると感じる人が多い。能力が高ければ、その時の判断でチャレンジ&カバーの関係を構築できるが、事前に準備の時間があるのなら、しっかり話し合っていた方がよい。たとえば**足の速い選手はカバー役、前に強いパワータイプはチャレンジ役など適性もあるので**。

³ もちろん、この表現は慣用句「2度あることは3度ある」を踏まえたものですが、「1度あることは2度ないようにする」のでなかなか2度はないが、2度あってしまう人間は3度目も犯す、という意味なのだと思う。

⁴ **月山合宿でお昼食べてすぐ出発して、OB戦に臨みます。**